

コーポレートガバナンス の簡単解説ガイド



※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご利用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2025年11月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

コーポレートガバナンスの簡単解説ガイド

コーポレートガバナンスの定義

コーポレートガバナンス（企業統治）とは、組織の不正や不祥事を防ぎ、経営において公正な判断・運営がなされるよう監視・統制する仕組みを指します。

「企業は経営者のものではなく、ステークホルダー（従業員、顧客、債権者、地域社会など）に最大限の利益を還元する必要がある」という考えに基づいています。

コーポレートガバナンスの必要性

コンプライアンスやCSR（企業の社会的責任）の考えが普及する現代において、企業の持続的な成長や安定のためにコーポレートガバナンスは欠かせません。

取り組みを強化することで、ステークホルダーとの信頼関係が高まり、社会的信用の向上や企業価値の向上につながります。また、金融機関からの信頼が増すことで資金調達がしやすくなるなど、中長期的な成長も期待できます。

コーポレートガバナンスの簡単解説ガイド

コーポレートガバナンスの主な目的・役割

コーポレートガバナンスには、主に以下の3つの目的・役割があります。

1：経営の透明性を確保する

ステークホルダーとの良好な関係性を保つため、財務情報や経営戦略、リスクマネジメントといった企業の現状把握に重要な情報を適切に開示し、透明性を確保します。これにより、ステークホルダーの信頼を高めることができます。

2：ステークホルダーの利益を守る

企業は株主、従業員、取引先など様々なステークホルダーとの関わりの上に成り立っています。特に株式会社において、経営者は経営を委任された立場であり、経営者の利益のみを求めるのではなく、株主をはじめとするステークホルダーの権利や利益を守る経営が求められます。

3：中長期的な企業価値を向上させる

情報の透明性を高めて社会的信用を得ることで、金融機関からの信頼向上（資金調達の円滑化）や、販売促進・採用活動での優位性など、様々なメリットが期待できます。これらの効果により、企業価値を向上させ、経営の安定化を図ります。

コーポレートガバナンスの簡単解説ガイド

コーポレートガバナンスと関連用語の違い

用語	概要	コーポレートガバナンスとの関係
内部統制	企業の信頼性や健全性を保証するため、企業や従業員が守るべき仕組みやルール。	コーポレートガバナンス（株主等の利益を守る仕組み）を達成するための「社内向けの仕組み」。
コンプライアンス	「法令遵守」。法律だけでなく、社会倫理や企業倫理（マナー、モラル）も含む。	コーポレートガバナンスは、コンプライアンス（守るべき法令や倫理）を守るための「仕組み」。
CSR	「企業の社会的責任」。消費者、従業員、環境、地域などへの配慮。	CSR（社会的責任）を達成するための要素（仕組み）としてコーポレートガバナンスがある。

コーポレートガバナンスが注目される背景

近年、日本でコーポレートガバナンスが注目される背景には、主に以下の2点が挙げられます。

- 1.企業の不正や不祥事の増加：**1990年代のバブル崩壊後、不正会計などが多発。不祥事を防ぐための企業統治が求められました。
- 2.企業のグローバル化：**海外進出や海外からの資金調達が増加するにつれ、透明性の高い経営が求められるようになりました。

コーポレートガバナンスの簡単解説ガイド

コーポレートガバナンスを強化する方法

主な強化方法として、以下のような取り組みがあります。

- ・ 内部統制を整備する
- ・ 独立性を有する社外取締役・監査役を設置する
- ・ 執行役員制度を導入する
- ・ 社内規定を明確化する

コーポレートガバナンスの主な課題

一方、ガバナンスを強化する上での課題として、以下のような点も挙げられます。

- ・ 監視・統制による意思決定の遅れ
- ・ 仕組み作りにコストがかかる
- ・ 社外取締役・監査役などの適切な人材が不足している